

# 平成30年度事業報告書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

特定非営利活動法人  
ふくやま子ども造形教育研究所

## 1 事業の成果

### 2019年度の活動総括

本研究所は、発足当初、多様な活動を行なってきたが、今では、「教員向け実技研修会」「親子造形教室」「学校からの依頼を受けての校内研修や示範授業への講師派遣」「年間活動の集約としての作品展」「作品展表彰式」この5分野とそれらの活動を支える理事会と定例会の組織運営に集約されてきた。

なお、相談役や顧問などのご尽力で、協賛団体からの寄付も維持拡大されている。

創立5周年の本年度は、第5回記念と銘打った作品展の盛会・理事会の機能化・ロゴマークの活用などの成果が得られた。他方、定例会の状況などは、引き続き課題である。それぞれの分野の総括は、次の通りである。

### (1) 第5回記念作品展

- ① 出品総数は、「小学校から」が伸びて、今回も前年を上回り、第5回記念の面目を保った。  
他方、就学前・中学校からの出品増は、それぞれ難しい課題がある。  
しかし、記念大賞に中学生の素晴らしい作品が選ばれ、宣伝ポスターにも使用し、良い作品の模範を示す大きな役割を担った。
- ② 作品の質は、教員向け実技研修会での指導技法が使われた作品や本研究所講師が指導に出向いた学校からの出品が多く、これまでの本研究所の活動の成果が反映されてきている。
- ③ 会場借用の都合上、審査会から作品展・表彰式までの期間が、従来の5週間から3週間と短く、タイトな準備日程、ハードな準備作業だったが、各理事などの役割分担が進み、何とか間に合った。しかし、子どもへの入賞通知に1件の間違いがあり、謝罪に出向いた。
- ④ 作品展示数を、従来の88点から「入選」を加え200点に増やしたことで、見ごたえのある作品展になり、来観者数700人は、あの施設の過去最多数で、鑑賞者の滞在時間も長くなった。  
他方、理事長・教育長の挨拶文よりも、「記念大賞」作品をもっと強調する展示配置すべきであった。
- ⑤ 宣伝ポスターを作成したことは良かった。次年度は、もう少し早く作成・配布し、展示会場の場所を詳細に記載する。(エフピコ・リム 7階 市民ギャラリー)
- ⑥ 1月30日の展示会場での作品返却の割合は2分の1程度で、以前より増加し、学校の主体的対応が高まった。
- ⑦ 作品名簿やキャプションの色をもっと見えやすくし、会場表示もより大きく目立つようにする。
- ⑧ 休憩場所の設置や作品の丁寧な扱いが好評であった。

## (2) 作品展表彰式

- ① 欠席児童・生徒が目立った。もっと早い案内と学校の協力が必要である。
- ② 来賓の欠席や代理出席も目立ち、雰囲気が悪くした。事前対応に不十分さがあった。  
欠席された（失念していた）山陽新聞支社長が、理事長を訪ねてお詫びに来られて、後日、「表彰式」が、備後版トップ記事として紹介された。
- ③ 舞台を半分に狭め、椅子スペースを広げ、保護者席を多く確保するよう改善する。椅子の必要数と司会台を事前に確保する。
- ④ 来賓席の位置をもっと舞台寄りにして特別賞授与の動線を短くし、式進行テンポを速め14時から15時までの60分間で行なう。
- ⑤ 次年度は、表彰式での表彰作品数を88点から74点に減少させ、会場の混雑解消を図る。
- ⑥ 「審査講評・喜びの言葉」は、「参加者に成程と思わせる説得力のある内容」で、素晴らしい学習の場となった。

## (3) 学校に出向く活動

- ① 今年度の図工科研究校14校（赤坂・瀬戸・内浦・高島・西・手城・桜丘・曙・蔵王・野々浜・新市・山野・御野・駅家）の多くは、本研究所講師が招かれ職員研修が行われた。
- ② 指導理論と実技指導の両面で、学校からの依頼に応じていく体制をとる。
- ③ 今年度の活動実績は、別紙の通り。

## (4) 教員向け実技研修会

- ① 計画通りに6回の研修が実施できた。研修内容が、作品展の出品作品に反映してきている。
- ② 特に第1回目の「生活画」は、内容も素晴らしく、参加者も多かった。
- ③ 作品を持ち寄っての交流研修を行ない好評であった。
- ④ 「版画・陶芸・木彫」研修の参加者を増やす方途を考えたい。

## (5) 親子造形教室

- ① 内容を新しいものに改める。絵画を取り入れる。粘土遊びの材質を改める。
- ② 各教室の作品を保護者の許可をとって、作品展にコーナーを設けて展示すると良い。

## (6) 理事会・定例会などの組織運営

- ① 理事会は、定例的に開催・協議がなされ、役割分担も進み、機能化した。
- ② 会員の定例会出席数は、拡大理事会程度の状況が続いている。

## 活動計算書

平成 30年 4月 1日 から平成 31年 3月 31日 まで

特定非営利活動法人 ふくやま子ども造形教育研究所

(単位：円)

科 目	金	額	
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	64,000		
正会員入会金	2,000	66,000	
2. 受取寄附金			
受取協賛金	235,000	235,000	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	150,000	150,000	
4. 事業収益			
講師料収入	122,265	122,265	
5. その他収益			
受取利息	10	10	
経常収益計			573,275
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) その他経費			
印刷製本費	1,879		
通信運搬費	33,028		
事務用消耗品費	98,418		
備品費	120,559		
研修費	747		
研究費	3,860		
交通費等補助金	5,000		
イベント開催諸費	249,201		
その他経費計	512,692		
事業費計		512,692	
2. 管理費			
(1) その他経費			
会議費	3,580		
車両費	10,086		
渉外費	10,467		
雑費	24,789		
その他経費計	48,922		
管理費計		48,922	
経常費用計			561,614
当期経常増減額			11,661
III 経常外収益			
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			11,661
当期正味財産増減額			11,661
前期繰越正味財産額			1,104,787
次期繰越正味財産額			1,116,448

貸借対照表

平成 31年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人 ふくやま子ども造形教育研究所

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,116,448		
流動資産合計		1,116,448	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
有形固定資産計	0		
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
投資その他の資産計	0		
固定資産合計		0	
資産合計			1,116,448
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		1,104,787	
当期正味財産増減額		11,661	
正味財産合計			1,116,448
負債及び正味財産合計			1,116,448

財 産 目 録

平成 31年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人 ふくやま子ども造形教育研究所  
(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,116,448		
流動資産合計		1,116,448	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
有形固定資産計	0		
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
投資その他の資産計	0		
固定資産合計		0	
資産合計			1,116,448
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
正味財産			1,116,448